

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和3年3月20日

公表:令和 3年3月20日

事業所名 放課後等デイサービスくる2

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用者定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		お子様の様子に合わせて部屋での過ごし方について配慮をしている。	
	2 職員の配置数は適切である	○			障害の重さによる職員配置をより考慮していきたい。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		床にはマットを敷くことや、安全に過ごす事に配慮してする。	構造化を行おうとしている姿勢はあるが、建物の構造上問題がありバリアフリー化は難しい部分がある。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		個別支援計画を作成し、ケース会議を行っている。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			今回初めて実施を行ったため、意見をもとに改善点を話しあっていく。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		今回ホームページにて公開をする。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			現在、第三者の外部評価は行ってないが、今後実施したい。
適切な支援の提供	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している		○	オンラインでのセミナー等に参加している。	感染症対策が十分に行われるようになった時点で積極的に研修の機会を確保していきたい。
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		定期的に保護者様と連絡を取るようになっている。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			アセスメントは保護者からの聞き取りが主。標準化されたシートは何を使用するのか検討中。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている		○		様々な観点から、立案を行っていききたい。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している		○		自立に向けた支援を行えるようプログラムを考えていきたい。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		外遊びや、製作活動などを取り入れている。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している		○	個別の援助になることが多いが、意識的に集団遊び等を予定している。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		担当するお子様や留意事項に気をつけられるように打ち合わせをしている。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		その日あったことなどを職員間で共有できるようにしている。	全ての職員が参加できない時間があるため、共有する事項に漏れがないようにしていく。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		お子様の様子や、保護者様らの連絡事項等、連絡帳にて確認出来るようにしている。	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		カンファレンスを行い、必要な支援を見直している。	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		参画出来ている。	会議は新型コロナウイルスの影響で企画されない場合は、文書で参加している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている		○	学校との情報共有を常に行えるようにしている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		経験がない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		多機能であるため児童発達支援事業所での情報を共有している。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		経験がない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		今後連携を深めていきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		新型コロナウイルスの関係で、交流する機会を失っている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		保護者と連絡を取る事を心がけている。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		保護者様からの個別の質問に応じているが、今後ペアレントトレーニングも行えるよう努力したい。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に面談を行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		連絡帳での日々の様子や、送迎時・面談時に話す機会を取れるようにしている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			新型コロナウイルスの関係で、機会を失っている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情対応窓口を周知してる。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		日々の連絡帳にて活動内容を報告している。	
	35	個人情報に十分注意している		○	個人情報の取り扱いについて十分に注意している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		絵カードや表示等を使ってお子様と情報伝達を行っている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		新型コロナウイルスの関係で、交流する機会を失っている。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		緊急時対応マニュアル等を職員間で理解出来るようにしている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		シェイクアウト訓練を実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている		○		職員間で話し合いを行っているが、今後は外部研修に参加していきたい。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		身体拘束については経験がないが、危険な際にどの程度制止が必要か話あっている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○	作成はしていないが、事例は職員間で共有している。	今後は話しあった事をヒヤリハット事例集として共有していきたい。